

# 阿蘇草原再生レポート

活動報告書 2023



阿蘇草原再生協議会

(2025年3月発行)

令和5年度 活動結果報告一覧

NO.	実施主体名	事業・活動名	関連する 全体構想 の取組	関連小委員会				実施日・ 実施期間
				牧野 管理	草原 環境 学習	野草 資源	その他	
1-1	跡ヶ瀬牧野組合 (阿蘇市)	熊本型放牧事業の継続	1, 2, 3, 6, 7	◎				2023. 4. 25～ 11. 25
1-2	車帰原野管理組合 (阿蘇市)	牧道・防火帯整備事業及び 省力化に向けて	2	◎				2023. 4. 1～ 12. 31
1-3	根子岳牧野組合 (阿蘇市)	根子岳の野焼き	2	◎				2023. 4. 1～ 12. 31
1-4	的石原野管理組合 (阿蘇市)	牧野管理道等の整備支援	2	◎				2023. 1. 1～ 12. 31
1-5	宮坂牧野組合 (阿蘇市)	牧野維持	2, 4	◎				2023. 3. 1～ 12. 31
1-6	山田中部牧野組合 (阿蘇市)	牧場内クヌギ林の再生と利 活用	2	◎				2023. 4～12
1-7	田の原牧野組合 (南小国町)	現状継続	2, 3	◎				2023. 4. 1～ 2024. 3. 31
1-8	農事組合法人湯田組合 (南小国町)	湯田牧野と湯田地域の交流 会	2, 3, 5, 6, 7, 9	◎				2023. 4. 1～ 2024. 3. 31
1-9	長野牧野農業協同組合 (南阿蘇村)	有畜農家と無畜農家の組合 員との交流	1, 2, 3, 1 2	◎				2023. 11. 3～ 2024. 4. 15
1-10	中郷・竹崎原野組合 (南阿蘇村)	牧野維持管理作業	2	◎				2023. 4. 1～ 2024. 3. 31
1-11	藤本賢一/乙ヶ瀬牧野 組合 (南阿蘇村)	乙ヶ瀬牧野管理作業と省力 化	1, 2, 7	◎				2023. 3. 1～ 11. 10
1-12	上野裕治	阿蘇草原ジビエの事業化に 関する調査	1, 4, 5, 6	◎				2023. 4～ 2024. 3
1-13	(公財)阿蘇グリーンス トック	野焼き支援ボランティア活 動	2, 3, 6, 10	◎				2024. 2～5
1-14	(公財)阿蘇グリーンス トック	輪地切り・輪地焼き支援ボ ランティア活動	2, 3, 6, 10	◎				2023. 9～12
1-15	(公財)阿蘇グリーンス トック	野焼き支援ボランティア初 心者研修会	3, 6, 8, 9	◎				2024. 1
1-16	(公財)阿蘇グリーンス トック	令和5年度あか牛オーナー 制度の推進	1, 6, 9	◎				2023. 4. 1～ 2024. 3. 31
1-17	環境省 阿蘇くじゅう 国立公園管理事務所	阿蘇草原(野草地)管理の ための牧野カルテ作成事業	2, 4	◎	○	○		2023. 4. 1～ 2024. 3. 31
1-18	環境省 阿蘇くじゅう 国立公園管理事務所	野焼き作業等の省力化及び 野草地利用を支援するた めの施設整備事業	2	◎		○		2023. 4. 1～ 2024. 3. 31
1-19	環境省 阿蘇くじゅう 国立公園管理事務所	野焼きの専門家集団の育成	2, 6	◎		○		2023. 4. 1～ 2024. 3. 31
2-1	黒川地区区長会 坊中区 (阿蘇市)	草原環境学習の推進及び広 報活動	2, 8, 9	○	★ ◎			2023. 3. 1～ 2024. 3. 31
2-2	小森原野組合 (西原村)	草原環境の普及啓発	1, 2, 5, 8	○	★ ◎			2023. 4. 1～ 2024. 3. 31
2-3	熊本県立阿蘇中央高等 学校	草原環境学習及び草原維持 活動	2, 8, 9	○	◎	○		2023. 4. 1～ 2024. 3. 31

NO.	実施主体名	事業・活動名	関連する 全体構想 の取組	関連小委員会				実施日・ 実施期間
				牧野 管理	草原 環境 学習	野草 資源	その他	
2-4	公益財団法人再春館 「一本の木」財団	親子の自然体験学習会「とれたての阿蘇の野草を動物園のゾウに届けよう！」	8		★ ◎	○		2023. 9. 17
2-5	公益財団法人再春館 「一本の木」財団	環境教育動画 江津湖篇 (湧水篇・生きもの篇・野鳥篇) 制作	8, 9		★ ◎			2023. 5~ 2024. 3
2-6	草原環境学習小委員会	阿蘇草原キッズ・プロジェクトⅣ ~草原と通して地域を学ぼう~	8, 9		★ ◎			2023. 4. 1~ 2024. 3. 31
2-7	町田怜子/ 東京農業大学	阿蘇地域における自然と共生してきた知恵を取入れた草原防災学習	9		★ ◎			2023. 4. 1~ 2023. 12. 30
2-8	井上真希	草原環境学習「オオルリシジミについて学ぼう！」	8		★ ◎			2023. 5. 9~ 5. 31
2-9	国立阿蘇青少年交流の家	阿蘇の草原キッズになろう！①秋編 ②野焼き編	8		★ ◎			①2023. 9~10 ②2024. 1~2
2-10	株式会社地域環境計画九州支社	阿蘇市立波野小学校におけるスズラン自生地を活用した草原学習(スズラン学習)の実施支援	4, 8		◎			2023. 4. 18~ 2024. 3. 22
3-1	阿蘇草原再生シール生産者の会	草原堆肥の利用と草原環境調査及び普及啓発活動	1, 4, 8, 9	○	○	◎		2023. 4~ 2024. 3
3-2	農事組合法人 草原再生オペレーター組合	採草による未利用草原の再生	2	○		◎		2023. 4. 1~ 2024. 3. 31
3-3	熊本県農業研究センター 草地畜産研究所	阿蘇産牧草を利用した高自給率発酵TMRによるあか牛肥育試験	1	○		◎		2023. 4. 1~ 2024. 3. 31
3-4	中村華子/日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会	野草資源化に向けて・緑化事業に植物種子を活用するための取り組み	4, 6, 7, 8, 9, 10, 11		○	◎		2023. 4. 1~ 2024. 3. 31
3-5	(公財)阿蘇グリーンストック	令和5年度 草小積み再生プロジェクト	5, 7, 9	○		◎		2023. 8. 1~ 2024. 3. 31
4-1	(公財)阿蘇グリーンストック	阿蘇地域シカ被害実態調査	4, 10, 13				◎	2023. 4. 1~ 2023. 12. 31
4-2	(公財)阿蘇グリーンストック	阿蘇地域における希少野生動物の生育生息調査と分布状況のデータベース化	4				◎	2023. 4. 1~ 2024. 3. 31
4-3	町田怜子/ 東京農業大学	半自然草地の保全にむけた炭素主流化によるカーボンオフセット創出	11				◎	2023. 4. 1~ 2024. 3. 30
4-4	NPO法人ASO 田園空間博物館	牧野ガイド事業	5, 8, 9				◎	2023. 4. 1~ 2024. 3. 31

◎：当該実施計画の検討を主に受け持つ ○：必要に応じて検討・協議を行う

★：阿蘇草原キッズ・プロジェクトの活動

※グレー着色の活動は、活動結果報告が提出されなかった活動。

「該当する第3期全体構想の取組」 凡例 ※構成員による活動の観点から整理・一部加筆

カテゴリー (3つの柱)	選択肢 (取組の項目)	具体例
生業による草原維持の支援強化	1 農畜産業の継続／支援強化	○繁殖あか牛の導入／預託放牧の推進／域内一貫経営の検討 ○新規就農の促進／小規模農家への支援 ○スマート農業の実装化など管理の省力化・効率化 等
	2 牧野管理作業の継続／軽減	○野焼き・輪地切りの継続／牧野管理道等の整備や支援／中山間直接支払等の補助事業 ○小規模樹林帯の伐採／草原と保安林における検討・モデル事業の実施 等
	3 ボランティアの拡充	○地元交流会の開催など地域内での参加促進 ○ボランティア研修会の実施／ボランティア負担軽減策の検討 等
公益機能保全のために多様な主体が関わる草原管理	4 生物多様性保全の促進	○生物多様性に配慮した営農／生息地の保護や生物調査の実施／新たな支援制度の検討 等
	5 観光利用による草原維持	○観光利用の実施／牧野利用ルールや協力金等の仕組みづくり／草原の語り手やガイド育成 等
	6 多様な関わりによる草原管理の推進	○野焼き再開事業の実施／「実行委員会形式」など新たな体制による維持管理の実施 等
普及啓発と科学的根拠に基づく後方支援基盤づくり	7 野草資源の多様な利用の促進	○野草資源利用の事業化／野草資源利用のための基盤整備(人材育成・インフラ整備・機械化) 等
	8 草原環境学習の実施	○地域内の子どもへの草原学習／地域内の大人への普及啓発／地域外を対象に行う普及啓発 等
	9 情報発信の強化	○各取組を促進するための情報発信やPRの実施
	10 草原情報の蓄積・活用の基盤づくり	○阿蘇草原に関する情報収集／蓄積／活用
	11 草原機能に関する科学的データの収集	○阿蘇草原の多面的機能等に関する研究／支援
—	12 草原再生の活動基盤の安定化	○牧野の権利関係や管理形態、草原再生の財源確保に関する情報整理／検討
—	13 その他	(上記に該当しないその他の取組)

令和5年度活動結果報告 1-2

提出日	令和6年5月21日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：車帰野原管理組合（阿蘇市）		
	担当者名：松村 浩市（組合長）		
事業・活動名	牧道・防火帯整備事業及び省力化に向けて		
実施場所	車帰原野一帯		
実施日・期間	草原環境調査：令和5年 4月 1日～ 令和5年 11月 30日		
実施内容	以前より車帰原野に於いて牧道・防火帯整備を行っており、 今年（令和5年）は県道339号線（通称：ミルクロード）参勤道豊後街道二重峠石畳休憩所西側牧道・防火帯約200m整備を行った。		
実施体制 (連携・協力)	10月後半からの地元車帰原野管理組合構成員による輪地切り・輪地焼きを行い、その後地元工事業者（島村組）の専門知識等による工事施工を行った。		
実施の様子	添付書類（工事施工写真） 前年（令和4年）に参勤道休憩所から約200mを施工しており、 今年（令和5年）はそこから西方向へ200m行った。		
活動目標の達成具合、その他の成果と課題	毎年自己資金や助成金等を活用し施工しており、広範囲を行うと工事費が高額になる為に毎年200m程度を目標に行っている。 車帰原野に於いて牧道・防火帯整備を必要とする箇所が未だに多数残っている。		
実施者の感想	今後も整備事業を行う事により構成員の高齢化等による人員減少等や省略化そして山林と野原との整備を目標に行っていきたい。		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. <u>使用なし</u>	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	



# 着手前

---



写真区分：着手前及び完成写真

写真タイトル：着工前

撮影箇所：No.0～No.2

# 完成

---



写真区分：着手前及び完成写真

写真タイトル：着工

撮影箇所：No.0～No.2

令和5年度活動結果報告 1-4

提出日	令和6年6月17日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：的石原野管理組合		
	担当者名：山内 今朝重		
事業・活動名	牧野管理道路、防火帯の整備		
実施場所	的石原野（阿蘇市）		
実施日・期間	草原環境調査：令和6年 1月 1日～ 令和6年 12月 31日		
実施内容	牧野管理道路及び防火帯を整備することにより、野焼き、輪地切り、輪地焼き等の作業負担軽減を図る。		
	野焼き、輪地焼きに使用する火消棒を昨年よりアルミで作成している。 (農機メーカー作成)		
実施体制 (連携・協力)	原野管理組合員、ボランティア等		
実施の様子	中山間交付金（中山間地域等活性化事業）により 牧道、防火帯の整備を実施している。 (コンクリート 100m、防火帯の整地 800m 程度)		
活動目標の達成具合、その他の成果と課題	毎年目標達成している。 野焼き、輪地切り、輪地焼き等の負担軽減になっている。		
実施者の感想	参加人数が減少傾向にあるので、原野組合等で一戸複数の参加を呼び掛けている。		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. <u>使用なし</u>	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	



令和5年度活動結果報告 1-5

提出日	令和6年6月12日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：宮坂牧野組合		
	担当者名：井野昭臣		
事業・活動名	牧野維持		
実施場所	宮坂牧野		
実施日・期間	令和5年 4月 1日～ 令和5年 10月 31日		
実施内容	野焼き、放牧地の鉄柱・鉄線の修理 牧草、野草の生産の維持 入会者40名ほどの参加 道路の草刈り		
実施体制 (連携・協力)	組合員、役員家族		
実施の様子			
活動目標の達成具合、その他の成果と課題			
実施者の感想	現状は高齢化が進み、様々な事業が厳しくなっているように思います。 牛馬が少数化になって草原が猪によって荒らされてきている。		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. <del>使用なし</del>	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

令和5年度活動結果報告 1-7

提出日	令和6年6月19日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：田ノ原牧野組合		
	担当者名：三嶋 智明		
事業・活動名	牧野の現状継続		
実施場所	田ノ原牧野		
実施日・期間	令和5年 4月 1日～ 令和6年 3月 31日		
実施内容	野焼き、輪地切り、輪地焼き		
実施体制 (連携・協力)	組合員16名、地元ボランティア6名、 グリーンストックのボランティア10名		
実施の様子	地元牧野組合員を含め、地元ボランティア・グリーンストックのボランティアが大きな怪我や事故もなく活動できているので、今後も引き続き事故のない作業を行っていきたい。 (急傾斜地などに牧野組合員を配置するなど)		
活動目標の達成具合、その他の成果と課題			
実施者の感想	地元牧野組合員の高齢化も進んでいるので、今後もグリーンストックのボランティア参加をお願いしたい。		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. <u>使用なし</u>	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	



令和5年度活動結果報告 1-9

提出日	令和 6年 6月 4日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：長野牧野農業協同組合（南阿蘇村） 提出者名：長野浩之		
事業・活動名	有畜農家と無畜農家の組合員との交流会		
実施場所	長野牧野		
実施日・期間	令和5年 11月 30日 ~ 令和6年 4月 15日		
実施内容	<p>野焼きや牧道の草切り、鉄柵などの整備の維持管理に有畜農家以外の協力を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牧野組合員が放牧、採草の状況や牧野内を案内する。</li> <li>・あか牛バーベキューを囲んで交流会（20～25人）</li> </ul>		
実施体制 (連携・協力)	組合員28軒、消防団、ボランティア		
実施の様子	連携が取れて色々な作業をこなしている。		
活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題	年間の活動目標を順調に達成している。		
実施者の感想	公的助成や自己資金で牧野ないの整備を行う。		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

令和5年度活動結果報告 1-10


提出日	令和 6年 5月 22日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：中郷・竹崎原野組合（南阿蘇村） 提出者名：後藤再起		
事業・活動名			
実施場所	中郷・竹崎牧野		
実施日・期間	令和5年 4月 1日 ~ 令和6年 3月 31日		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有畜農家による周年放牧</li> </ul>		
実施体制 (連携・協力)	有畜農家のみ		
実施の様子			
活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有畜農家のみでは無理になってきた。</li> <li>・今後野焼の検討も必要か？植林か？</li> </ul>		
実施者の感想			
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

令和5年度活動結果報告 1-12

提出日	令和 6 年 3 月 31 日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：上野裕治 担当者名：		
事業・活動名	阿蘇草原ジビエの事業化に関する調査(2)		
実施場所	熊本県本庁、くまもとジビエコンソーシアム、ジビエ事業について先行している地域（山都町、下関市）、各地のジビエ関連民間施設など		
実施日・期間	令和 5 年 4 月 ~ 令和 6 年 3 月		
実施内容	<p>●ヒアリング調査の実施</p> <p>昨年度の調査に加えて、今年度は先行して事業実施している自治体や民間施設へのヒヤリングや施設見学を行い、阿蘇地域におけるジビエ事業実施への可能性を検討した。調査は以下の機関へのヒアリングを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリング調査等：熊本県農林水産部農村振興局むらづくり課、くまもとジビエコンソーシアム、南阿蘇村農政課、下関市、山都町、くまもと農家ハンター、糸島ジビエ研究所</li> <li>・HP 等文献調査：うきは市・ウキナナ、豊後大野市・女猟師の加工所</li> <li>・セミナー参加：小国町ジビエ処理加工技術向上研修会、南阿蘇村獣害対策セミナー</li> </ul> <p>●ジビエ事業化の課題と要点のまとめ。</p> <p>●阿蘇地域における事業化の試案。</p>		
実施体制（連携・協力）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上野裕治、松本清高（猟友会乙姫区役員、黒川牧野組合員）</li> <li>・協力：（公財）阿蘇グリーンストック（鷲津）、（株）GS コーポレーション</li> </ul>		
実施の様子	<p>公共による事業としては山都町「ジビエ工房やまと」および下関市「みのりの丘ジビエセンター」にヒヤリングを行い多くの助言を得た。民間はヒヤリングのほかホームページによる調査、各種セミナーへの参加などにより調査し、多様な意見を得た。その結果、ヒヤリングからは公共による事業実施と民間による実施では大きく状況が異なることが分かった。公共の場合、資金は補助金、過疎債などを活用し、指定管理によって管理運営するケースが多い。民間では資金調達が難しく、共同運営やクラウドファンディングによる調達、会員制などの方法がとられている。</p>		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリングとデータ収集、検討から、阿蘇地域における事業実施の課題と要点を整理した。</li> <li>＊共通事項：シカ・イノシシの頭数は確実に増加している。猟友会、害獣捕獲隊との連携は重要。食肉にするにはワナ猟が望ましい。これからは ICT、</li> </ul>		



	<p>IoT といった技術も必要。ブランディングが重要。まずは地産地消を目指すべき。など</p> <p>*公共による実施：市町村長、議会、住民の理解が必須。事業の必要性を明確に説明（農林業被害軽減、経済的効果、販売予測など）する。まずは行政の強い意志が必要。運営は指定管理が望ましい。</p> <p>*民間による実施：事業コンセプトの明確化と地域住民との一体感醸成。資金調達方法の検討（補助、共同出資、会員制、クラウドファンディングほか）。事業計画の立案。</p> <p>・これを踏まえ、阿蘇地域における事業モデル（試案）として公設民営方式（阿蘇市または南阿蘇村が事業主体、阿蘇 GS が指定管理者）と民間運営方式（阿蘇 GS が運営主体）を示した。</p>
<p>実施者の感想</p>	<p>今回の調査では、ジビエ事業の難しさが非常に良く分かったとともに、事業が求められている現状も良く分かった。阿蘇の草原においてシカ・イノシシは、放牧されている牛馬を除いて生態系の最上位に位置し、重要な位置を占めている。ただ害獣駆除ということで済ませるのではなく、地域資源として活用することは、阿蘇の未来を考える上で必須の要素であると考えている。</p>
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p> <p>②. 使用なし</p>

令和5年度活動結果報告 1-13

提出日	令和 6年 5月 22日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：公益財団法人阿蘇グリーンストック		
	担当者名：鷲津 大輔		
事業・活動名	野焼き支援ボランティア活動		
実施場所	阿蘇地域の各牧野		
実施日・期間	令和 5年 5月 2日～ 令和 6年 4月 20日		
実施内容	<p>阿蘇地域の牧野組合及び地区が行う野焼き作業に対して、ボランティア派遣による人的支援を次の通り行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野焼き作業時の監視及び残り火の消火</li> </ul> <p>また、事務局として次の業務を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>阿蘇地域の各市町村と連携し、支援対象団体を集約</li> <li>野焼き支援ボランティアの募集及び活動牧野への割り振り</li> <li>支援対象団体との調整</li> <li>活動に必要な資機材の調達及び配置、活動後の回収</li> </ul>		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>野焼き支援ボランティア（阿蘇グリーンストック）</li> <li>阿蘇地域の各牧野組合及び地区の関係者</li> <li>阿蘇地域の各市町村</li> <li>阿蘇グリーンストック</li> </ul>		
実施の様子			
活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題	<p>&lt;活動参加者数&gt; (目標) 延べ1, 000名 ⇒延べ1, 168名 (活動参加実働数：479名)</p> <p>&lt;支援団体数&gt; (目標) 40団体 ⇒57団体</p>		
実施者の感想	<p>軽微な延焼事案が1件あったものの、ケガ等はなく無事に活動を終えることができた。昨年度の野焼き事故（ボランティア2名が入院）を踏まえ、シーズン中にボランティア会員を対象として難燃性活動服の貸与を進めた。活動回数を重ねるごとに着用率が高まり、安全確保を推進することができた。</p>		



ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)
---------------	----------------------	--------------------------

令和5年度活動結果報告 1-14

提出日	令和 6年 5月 22日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：公益財団法人阿蘇グリーンストック 担当者名：鷲津 大輔		
事業・活動名	輪地切り・輪地焼き支援ボランティア活動		
実施場所	阿蘇地域の各牧野		
実施日・期間	令和 5年 9月 1日～ 令和 5年 12月 3日		
実施内容	<p>阿蘇地域の牧野組合及び地区が行う防火帯づくりの作業に対して、ボランティア派遣による人的支援を次の通り行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防火帯づくりのための草刈り作業（輪地切り）及び刈草の除去作業</li> <li>防火帯機能強化のための刈草焼却作業（輪地焼き）時の監視及び残り火の消火</li> </ul> <p>また、事務局として次の業務を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>阿蘇地域の各市町村と連携し、支援対象団体を集約</li> <li>野焼き支援ボランティアの募集及び活動牧野への割り振り</li> <li>支援対象団体との調整</li> <li>活動に必要な資機材の調達及び配置、活動後の回収</li> </ul>		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>野焼き支援ボランティア（阿蘇グリーンストック）</li> <li>阿蘇地域の各牧野組合及び地区の関係者</li> <li>阿蘇地域の各市町村</li> <li>阿蘇グリーンストック</li> </ul>		
実施の様子	 		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<p>&lt;活動参加者数&gt;          (目標) 延べ1,000名          ⇒延べ1,113名 (活動参加実働数：222名)</p> <p>&lt;支援団体数&gt;          (目標) 40団体          ⇒43団体</p>		


実施者の感想	転倒による手首の骨折が1件発生したため、引き続き足元の確保を呼び掛け、転倒予防に努めたい。	
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)

令和5年度活動結果報告 1-15

提出日	令和 6年 5月 22日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：公益財団法人阿蘇グリーンストック 担当者名：鷲津 大輔		
事業・活動名	野焼き支援ボランティア初心者研修会		
実施場所	阿蘇草原保全活動センター草原学習館		
実施日・期間	令和 5年 7月 30日 令和 6年 1月 14日、20日、21日、28日		
実施内容	<p>阿蘇地域の牧野組合及び地区が行う野焼き作業を支援するため、草原や野焼きに関する研修会を次の通り開催し、新たな支え手となるボランティアの獲得・育成を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会参加者募集チラシの制作及び配布、阿蘇グリーンストックHPでの告知</li> <li>・研修会参加者の取りまとめ</li> <li>・指導役（野焼き支援ボランティアリーダー）の募集</li> <li>・研修資料の作成及び必要な資機材の準備</li> <li>・研修（座学）及び体験活動の実施</li> </ul> <p>&lt;内容&gt;            草原の恵み、現状、保全の取り組みなど            野焼き支援ボランティア活動の紹介            活動時の安全管理            野焼き時に使用する道具の取扱い（火消棒、ジェットシューター）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野焼き支援ボランティア登録の受付</li> </ul>		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野焼き支援ボランティアリーダー（阿蘇グリーンストック）</li> <li>・阿蘇グリーンストック</li> </ul>		
実施の様子	 		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<p>(目標) 開催数4回・参加者数計200名            ⇒5回開催・参加者数計292名(188名ボランティア会員登録)            夏季 (2023.7.30) 参加者 56名            冬季第1回(2024.1.14) 参加者 58名</p>		


	<p>冬季第2回（2024.1.20）参加者 58名</p> <p>冬季第3回（2024.1.21）参加者 52名</p> <p>冬季第4回（2024.1.28）参加者 68名</p>
実施者の感想	<p>例年と比べ、多くの受講者が野焼き支援ボランティア会員として登録を行った。登山やトレイルランニング関係者へのPR活動に加え、現役ボランティア会員（指導役）との意見交換が奏功したと思われる。今後も草原保全と野焼き支援ボランティア活動について広く普及啓発を図りたい。</p>
ロゴマーク 使用状況	<p>①. 使用あり ⇒ （ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など）</p> <p>②. 使用なし      募集チラシに掲載</p>

令和5年度活動結果報告 1-16

提出日	令和 6年 6 月 8 日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 公益財団法人阿蘇グリーンストック 担当者名： 事業部 山本 保孝		
事業・活動名	令和5年度 あか牛オーナー制度の推進		
実施場所	阿蘇地域		
実施日・期間	令和 5年 4月 1日～ 令和 6年 3月31日		
実施内容	<p>あか牛オーナー制度発足当初は、あか牛の子牛の価格が30万円前後程度であったが、現在は60万円前後程度となっており、30万円の導入資金貸付では半額程度しかならないこと等で、受入農家のメリットが少ないとの意見が多かった。今年度より1頭に対して2口(60万円)に変更したことや、5年間の返済後に1口につき3万円の支援金がオーナーより送られるよう改定したことで、受入農家が借入しやすくなった。</p> <p>また、春と秋には、オーナーと受入農家の親睦を図るための交流会を実施した。さらに、オーナーのへあか牛の様子や活動の様子をお知らせする「オーナー通信」の発行を3回行った。</p>		
実施体制 (連携・協力)	<p>事務局：(公財)阿蘇グリーンストック あか牛オーナー、受入農家(あか牛繁殖農家) ＜協力・支援＞ 熊本県畜産農業協同組合阿蘇支所・南阿蘇支所、阿蘇市(協定締結)</p>		
実施の様子	<p>交流会は、春はわらび狩りとBBQを予定していたが天候不良により、屋内でのBBQのみとなった。</p> <p>秋の交流会は、スイートコーンの収穫とBBQを予定し、天候に恵まれて楽しい収穫と美味しい地元野菜とあか牛肉でBBQを実施することができ交流が深まった。</p>		<p><b>秋の交流会の様子</b></p>
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<p>オーナー契約10件、オーナー牛の受入頭数5頭の目標に対し、オーナー牛は5頭であったが、オーナー契約が7件止まりであった。</p> <p>また、オーナー交流会は春と秋に実施し、オーナー通信も3回発行し目標を達成することができた。</p>		

実施者の感想	<p>オーナー牛導入貸付金を増やしたことや支援金制度を取り入れたことで、受入農家さんにはメリットが増え導入意欲が高まった事により、出資側であるオーナーの募集を更に拡充していきたい。また、来年度（2024年度）は、オーナー制度の20周年にあたるため、秋の交流会で拡大したイベントを行うことでオーナー制度の普及啓発の向上を目指して取り組みたい。</p>
ロゴマーク 使用状況	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など) 2. 使用なし</p>

令和5年度活動結果報告 1-17


提出日	令和 6年 5月 28日	活動区分 ※事務局で記入	(1)、(2)、(3)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 担当者名：吉岡 一也		
事業・活動名	阿蘇草原（野草地）管理のための牧野カルテ作成事業		
実施場所	南小国町 田の原牧野、波居原牧野 小国町 上田第一牧野 南阿蘇村 白川牧野、夜峰山・御竈門山地区 阿蘇市 赤水牧野、狩尾南山原野		
実施日・期間	令和 5年 5月17日～ 令和 6年 3月 1日		
実施内容	<p>○牧野カルテの作成</p> <p>現地調査、ヒアリング、検討会等の実施によって、牧野地内の動植物の生息・生育状況の把握や、牧野の過去・現在の状況、牧野内の地名とその由来等について記録した。また、今後の野焼き支援整備事業につなげることを目的に、対象牧野の維持管理上の課題抽出と整備方針を整理した。</p> <p>以上の内容からなる牧野カルテを7牧野において、策定した。</p>		
実施体制 (連携・協力)	各牧野組合、自治会等 阿蘇グリーンストック（業務請負者） 環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所		
実施の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ヒアリング・検討会の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>現地調査の様子</p> </div> </div>		
活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に予定していた6牧野の一部を変更し、7牧野で実施した。これまでに累計で全65牧野地区での牧野カルテ作成が完了した。</li> <li>・今年度は過年度のノウハウを活かして作成プロセスの効率化を行う一方で、実施する対象牧野数については倍増して行った。実質的な調査範囲の面積については前年よりも大きく増えたため、従事する担当者や専門家の負担が増しており、作業分担のあり方等の体制作りが今後の課題といえよう。</li> </ul>		
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度抽出した各牧野の整備課題については概算工事費の算定まで行っている。牧野カルテの作成段階において、すでにその後の整備事業の具体的</li> </ul>		


	<p>な試算と的確な計画立案が可能になった点は大きい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一方で、牧野カルテを実施した牧野地区によっては、野焼きが中断したままで再開の目処が立たないことから、課題整備の実施を見合わせざるを得ないところもあった。</li> </ul>
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p> <p>2. 使用なし</p>



<p>その他の成果 や課題</p>	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年3月末迄に、44牧野で工事を実施（阿蘇市28、南阿蘇村10、高森町2、産山村1、南小国町2、小国町1）</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ここまで整備工事を実施した牧野数は、機能維持している全牧野の1/4程度であり、十分とはいえない。引続きスピード感をもって事業を行っていくことが肝要である。</li> </ul>			
<p>実施者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>牧野毎に異なる多様な現地課題箇所の特性に鑑みて、今年度は特に整備の技術的な視点から柔軟に対応していくことを心掛けてきた。</li> <li>利用者目線での有用な整備を実施するためにも、現地を熟知した牧野関係者とのコミュニケーションは不可欠だと実感したところ。これからも関係者の声を聞いて、実のある整備の実現を目指したい。</li> </ul>			
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="408 710 678 745">1. 使用あり ⇒</td> <td data-bbox="678 710 1422 745" rowspan="2">（ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 745 678 806">2. 使用なし</td> </tr> </table>	1. 使用あり ⇒	（ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など）	2. 使用なし
1. 使用あり ⇒	（ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など）			
2. 使用なし				

令和5年度活動結果報告 1-19

提出日	令和 6年 5月 28日	活動区分 ※事務局で記入	
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所		
	担当者名： 岩崎辰也		
事業・活動名	野焼きの専門家集団の育成		
実施場所	1 牧野1自治体を対象に業務を実施。 下荻の草牧野（阿蘇市）及び南阿蘇村		
実施日・期間	令和 5年 4月 1日～ 令和 6年 3月31日		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材の確保 各対象牧野における専門家集団を構成する人材を計13名確保した。人材の確保にあたっては、環境省担当官と協議の上、4団体を対象にヒアリングを実施した。</li> <li>・人材育成研修の実施 選定した人材を対象に、講習（1回）、火引き実習（2回）からなる研修を実施。なお、研修の実施にあたっては、研修参加者への装備（難燃性衣服、ゴーグル、手袋及びヘルメット）を支給。</li> <li>・実装に向けた情報整理 野焼き専門家集団が関わる野焼きを実装するため、以下の通り情報整理を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実装までのロードマップの作成</li> <li>・財源確保に向けた検討</li> <li>・市町村毎の実装のための課題整理</li> <li>・専門家集団の体制検討</li> </ul> </li> </ul>		
実施体制 (連携・協力)	環境省の事業として実施。 南阿蘇村については、独自の火引きプロ人材認定制度が関係することから、本事業と役割を分担した上で進めた。		
実施の様子			

	<p style="text-align: center;">講習</p>  <p style="text-align: center;">火引き実習</p>	
<p>活動目標の達成具合、その他の成果や課題</p>	<p>&lt;活動目標の達成具合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 牧野下荻の草牧野（阿蘇市）及び1 自治体南阿蘇村で実施して、完了した。</li> </ul> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本業務における野焼き専門人材の候補者を計 13 名確保した（南阿蘇村の独自制度の受講者として南阿蘇村が公募も含む）</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 熊本県や市町村事業とも連携してして、進めていくことが重要。</li> </ul>	
<p>実施者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 希望する牧野組合や市町村と連携して、仕組みの構築に努めていきたい。</li> </ul>	
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ 2. 使用なし</p>	<p>（ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など）</p>

令和5年度活動結果報告 2-1

提出日	令和6年6月17日	活動区分 ※事務局で記入	(2)、(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：黒川地区区長会坊中区（阿蘇市） 担当者名：井澤 長英		
事業・活動名	草原環境学習の実施、情報発信の強化 ☆阿蘇草原キッズ・プロジェクト		
実施場所	黒川牧野坊中区の原野、阿蘇市小学校5校、道の駅、坊中郵便局 等		
実施日・期間	草原環境調査：令和5年 3月 1日～ 令和6年 3月 31日		
実施内容	<p>①輪地切り（11月5日） 参加者11名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>坊中区原野の東側、西側に森林があり、野焼きの際に火が入らないように8～10mの幅のススキを切った。</li> </ul> <p>②野焼き（3月3日） 参加者17名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有志17名の協力で野焼きを実施した。前日、当日の天気も良く、きれいに焼くことができた。キジや5頭のシカの姿が見られた。</li> </ul> <p>③広報誌「草原の風だより」は、春・夏・秋・冬の4回印刷発行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>草原や牛、馬、昆虫、植物の様子を写真に撮り、阿蘇市内小学校5校、道の駅阿蘇、坊中郵便局、薬局、青少年交流の家、坊中公民館等12か所に展示した。</li> </ul> <p>④小学校職員室2か所で募金活動を実施した。</p>		
実施体制 (連携・協力)	輪地切り、野焼きは地元坊中区の有志が協力。 広報誌掲示は地元小学校をはじめ12の機関が協力。		
実施の様子	<p>①輪地切りは、ススキの高さが1～2cm程あり。また土地の傾斜もあったので、時間もかかり、苦労した。</p> <p>②野焼きはリーダーの指示のもと、安全に実施できた。キジ、シカも姿を見せ、大自然の息吹を感じとることができた。</p> <p>③広報誌掲示は、阿蘇市の小学生約1200名の目に触れられ、草原、動物、植物の様子を伝えることができた。</p>		
活動目標の達成具合、その他の成果と課題	<p>①輪地切りの参加者は11名で、土地の傾斜に苦労しながらも、安全に実施できた。</p> <p>②野焼きの参加者は17名で、安全に実施できた。参加者の中で初めての野焼き体験者が2名いた。</p> <p>③学校の先生からは、子どもが「草原の風だより」をよく見ていましたと、報告をもらいました。</p>		
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>輪地切り、野焼きは高齢化が進んでいくので、若い人へも協力を呼び掛けていきたい。</li> <li>広報誌は草原、牛馬、昆虫、植物の様子を子どもたち、地域の方々、観光客に知らせることができたと思われる。子どもたちには、草原で遊んだり、体験活動をしたりする機会を増やしていきたいと思った。</li> </ul>		

ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. <u>使用なし</u>	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)
---------------	-----------------------------	--------------------------

※子ども会との体験活動を10～11月に計画していましたが、日程があわなかったり、小学校でインフルエンザが流行したりして、活動できませんでした。



令和5年度活動結果報告 2-2

提出日	令和 6年 6月 3日	活動区分 ※事務局で記入	(2)、(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 小森原野組合 担当者名： 田中英雄		
事業・活動名	草原環境の普及啓発		
実施場所	小森原野		
実施日・期間	令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日		
実施内容	<p>1.放牧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間：2023/4~2024/3</li> <li>・周牛放牧の実施</li> </ul> <p>2.輪地切り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間：12月、1月、2月（計画区域毎に実施）</li> </ul> <p>2.野焼き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：2024.3.03</li> <li>・範囲：200ha</li> </ul> <p>8.草原学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：2023.9.08</li> <li>・参加人数：小学3年生 65名</li> </ul> <p>13.草原文化の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草泊り-1基</li> <li>・草小積-2基</li> </ul> <p>5.観光利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山マップの作成（観光課）</li> <li>・マウンテンバイクの利用推進</li> </ul>		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合役員 11名</li> <li>・応援者 11名</li> <li>・他 野焼き（全組合員対象 350名）</li> </ul>		
実施の様子	<p>2.輪地切り</p>  		

	<p>8.草原学習</p>  <p>13.その他（草原文化の継承）</p> 
<p>活動目標の達成具合、その他の成果や課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 野焼き 200ha</li> <li>• 草原学習 小学生 65 名参加</li> <li>• 草原文化の継承—草泊り 1 基、草小積 2 基 ※物産館地域内での見学者多数あり</li> </ul>
<p>実施者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 野焼きは行政主体での計画で例年通り、順調に進んだ</li> <li>• 草泊り、草小積の制作に多大な人数と費用が例念発生している。</li> </ul>
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p> <p>2. <del>使用なし</del></p>

令和5年度活動結果報告 2-3

提出日	令和 6年 6月 20日	活動区分 ※事務局で記入	(2)、(1)、(3)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 熊本県立阿蘇中央高等学校 担当者名： 早瀬 寿樹		
事業・活動名	草原環境学習及び草原維持活動		
実施場所	阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎及び小柏演習林		
実施日・期間	令和 5年 4月 1日～ 令和 6年 3月 31日		
実施内容	①輪地切り、輪地焼きの実施（演習林及び隣接地） ②火消し棒の製作 ③野焼きの実施（小柏演習林・立山牧野組合） ④再生地植生調査・整備		
実施体制 (連携・協力)	(主体) 阿蘇中央高校グリーン環境科生徒約40名 (連携・協力) 環境省阿蘇自然事務所、阿蘇草原再生募金事務局、竜神牧野、立山牧野、本校農業食品科		
実施の様子	①輪地切り、輪地焼きの実施（小柏演習林、立山牧野） グリーン環境科3年生が授業内で実施した。隣接地もボランティアで防火帯作りを実施した。 ②火消し棒づくり 野焼きに初めて参加する1年生を対象に火消し棒製作を行った。今年度は農業食品科の1年生も制作に参加し、グリーンストック阿蘇の方を講師としてお招きし、火消し棒製作を行った。製作した火消し棒を使用して野焼き実習に取り組んだ。 ③野焼き（小柏演習林、立山牧野） 立山牧野組合と協力して1，2年生が参加して野焼き実習を行った。 ④再生地調査・整備 プロット枠の劣化により、来年度に向けたプロット枠の補修作業を行った。		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	今年もグリーン環境科の全生徒が参加し、様々な活動を展開することができた。毎年生徒数は減少しており、生徒一人一人の負担は大きいですが、草原の役割を理解し、地域のためにと頑張ってくれたため毎年継続した活動が可能となっている。高齢で作業できない牧野の防火帯作りなど地域貢献もすることができた。今年度は火消し棒づくりにおいて、グリーンストック阿蘇の方に講師として来ていただき、農業食品科の1年生も参加し、火消し棒づくりを行った。学校敷地内にある四阿の差し葺き実習を実施することができた。		

	今後も地域の生徒達が草原の担い手となるような活動を実施していきたい。
実施者の感想	草原維持活動や火消し棒の製作は今後も継続して取り組んでいきたい。また、茅葺き職人さんから学んだ茅葺き技術を広める活動も取り組んでいきたい。今後も地域の高校として草原再生、環境、農業を守る活動を継続していきたいと考えている。今年度は阿蘇グリーンストックと連携し、小中学生と連携した取り組みを実施していきたい。
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など) ②. 使用なし

令和5年度活動結果報告 2-4

提出日	令和 5年 10月 2日	活動区分 ※事務局で記入	(2)、(3)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 公益財団法人再春館「一本の木」財団 担当者名： 松尾		
事業・活動名	親子の自然体験学習会「とれたての阿蘇の野草を動植物園のゾウに届けよう！」		
実施場所	米塚下園地（阿蘇市）熊本市動植物園（熊本市）		
実施日・期間	2023年9月17日（日）		
実施内容	<p>（現地集合・現地解散）</p> <p>【米塚下園地】</p> <p>10:00 開館（環境省・パークボランティアから阿蘇の自然環境について説明・熊本市動植物園からゾウと阿蘇のつながりについて説明）</p> <p>10:20 野草観察（野草集め・発表）</p> <p>11:15 草刈り・草集め（車帰原野管理組合（上野氏）から草原について説明）</p> <p>【熊本市動植物園】</p> <p>14:40 ゾウのエサやり体験</p> <p>15:30 閉会</p>		
実施の様子	<p>公益財団法人再春館「一本の木」財団スタッフ 3名</p> <p>環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 3名</p> <p>熊本市動植物園 2名</p> <p>車帰原野管理組合 1名</p> <p>阿蘇地区パークボランティアの会 4名</p>		
成果	熊本市周辺と阿蘇地域の小学生及び保護者30名		
実施者の感想	<p>参加者からは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そうさんにえさをあげて、はながかたかったし、けがすごくちくちくしていました。えさをあげてうれしかったです。</li> <li>・しらないしょくぶつや花をしれてよかったです。ゾウやキリンをさわれてとてもおもしろかったです。またしたいです。おべんとうもおいしかったです。</li> <li>・阿蘇の野草が長年、市内の象さんに食べてもらってることがわかり、喜んで食べていることが直近で 見れて知れてよかった。狭いオリの中に入れていのはかわいそうと思った。あその草原に連れて行ってあげる機会があればいいのになと思いました。野草の種類も親子で学べて良かったです。やはりあその自然はすばらしいですね。</li> </ul> <p>との感想もあり、好評理に開催できました。</p>		
ロゴマーク 使用状況	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p> <p>2. <u>使用なし</u></p>		



8月29日 野草観察



9月24日 ソウに野草

令和5年度活動結果報告 2-5

提出日	平成 6 年 7 月18日	活動区分 ※事務局で記入	(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：公益財団法人再春館「一本の木」財団		
	担当者名 岩越		
事業・活動名	環境教育動画 江津湖篇（湧水篇・生きもの篇・野鳥篇）制作		
実施場所	阿蘇市各所・江津湖・水前寺公園（熊本市）		
実施日・期間	令和5年4月～令和6年3月		
実施概要	<p>当財団は子ども達に熊本の自然環境の大切さを学ぶための環境教育活動事業を行っています。</p> <p>今回は、熊本市市街地にある江津湖の豊かな自然をテーマに環境教育動画を制作し、熊本の水環境保全の観点から阿蘇の豊かな水資源の状況や重要性を広く周知することで、自然環境への関心と保護・保全の意識の向上を目指します。</p>		
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人再春館「一本の木」財団</li> <li>・撮影委託：第一エージェンシー株式会社</li> <li>・協力：熊本市（動植物園、上下水道局）、水前寺成趣園 自然観察くまもと、日本野鳥の会熊本県支部</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育動画江津湖編（湧水編・生き物編・野鳥編）を制作しました。</li> <li>・湧水編において、阿蘇山の成り立ち、阿蘇の伏流水と熊本の地下水の関係〈特に江津湖地域〉について、わかりやすくまとめたビデオ教材を制作し、再春館「一本の木」財団 YouTube チャンネルで公開中です。</li> <li>・熊本地域の水源地に併せ、阿蘇地域の多くの自然湧水地も紹介、阿蘇市役犬原自噴湧水をはじめとした各地の水源地を映像により紹介し、阿蘇の豊かな地下水の紹介も行っています。</li> </ul>		
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本地域の豊かな地下水と阿蘇山との関係についてわかりやすく説明できる映像教材が作成できました。</li> <li>・今後、この映像を、阿蘇編や荒尾干潟編と併せ、熊本の豊かな自然環境、水資源の重要性を広く知ってもらおうとともに、環境教育の教材として、幅広く有効活用を図っていきたいと考えています。</li> </ul>		

# 一本の木 K TUBE で 散策しよう!

えごこ 江津湖を

いっぽんのケイチューブ



江津湖にはめずらしい生きものがいっぱい! 湧き水もあって楽しそう!



江津湖の自然や生きものについて学べる動画配信中!

タブレット・スマホですぐに見れる!

## 生きもの編



江津湖一帯には、さまざまな昆虫や魚や植物が生息しています! いったいどんな特徴や習性があるのでしょうか。

## 野鳥編



江津湖には、一年中たくさんの野鳥が訪れ、観察することができます。珍しい鳥や絶滅が心配される鳥なども紹介します。

## 湧水編



日本一の地下水都市といわれる熊本のシンボル江津湖について紹介します。なんと江戸時代のある偉人も関係しているよ。

【撮影】熊本市 【監修】 東海大学名誉教授 梶田聖孝氏 【協力・写真提供】 国土交通省九州地方整備局 熊本河川国道事務所、熊本県、熊本博物館、熊本市上下水道局、熊本市動植物園、水前寺江津湖公園サービスセンター、出水神社（水前寺成徳園）、自然観察指導員熊本連絡会（自然観察くまもと）、日本野鳥の会熊本県支部、日本料理 むく村、林田 創氏

令和5年度活動結果報告 2-6

提出日	令和 6 年 6 月 日	活動区分 ※事務局で記入	(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：草原環境学習小委員会		
	担当者名：事務局：環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 藤田幸代		
事業・活動名	阿蘇草原キッズ・プロジェクトⅣ ～草原を通して地域を学ぼう～		
実施場所	阿蘇郡市内の小中学校、地域の牧野など		
実施日・期間	令和5年4月～令和6年3月末（4年間の実施期間の3年目）		
実施内容	<p>① 学校における地域学習の拡大と定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各団体の個別プログラムの開発と実施継続</li> </ul> <p>② 地域の学習をサポートする体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育関係者や関係機関、地元牧野組合との連携強化</li> <li>地域学習に係る役割分担と連携・協働体制の強化</li> <li>草原学習館の総合窓口機能の強化</li> </ul> <p>③ 情報発信・普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちによる学習成果の発信としての学習発表会の継続</li> <li>草原キッズにゅーす発行と、ぬりえコンテストの開催</li> <li>普及啓発パンフレット作成</li> <li>SNS・HP 等での情報発信</li> </ul>		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習小委員会構成員</li> <li>教育関係機関</li> <li>地域の牧野組合</li> <li>学識経験者や関連団体（協議会構成員など）</li> </ul>		
実施の様子	 <p style="text-align: center;"> <span>水の学習</span>                      <span>学習館での学習</span>                      <span>学習発表会</span> </p>		
成果と課題	<p>① 学校における地域学習の拡大と定着 令和5年度実施校          草原環境学習を実施する小学校数：14校/17校中          うち、大地の成り立ち（ジオ）や農畜産業についても学ぶ校数 11校          うち、草原での体験学習を実施する校数：14校</p> <p>② 地域の学習をサポートする体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>阿蘇市・地域環境計画によるスズラン学習の実施</li> <li>実務者ワーキンググループ:4回開催</li> </ul> <p>③ 情報発信・普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちによる学習成果の発信としての学習発表会の継続              令和6年2月6日（火）対面・リモートにて開催              発表校：波野小学校、阿蘇中学校、玉名高校、高森高校</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及啓発パンフレット「九州の水がめ阿蘇草原で学ぶ 学習・研修の進め」作成 3月/1,000 部発行</li> <li>・草原キッズにゅーす第7号 10月 3,400 部発行 ぬりえコンテストの開催（絵画は展示が難しいため中止した） ぬりえ 811 点応募/入賞 67 点（内、高森高校賞 4 点）</li> <li>・高森高校マンガ学科の創設に伴い、ぬりえイラスト原画作成を依頼した。 イラスト 32 点応募/入賞 3 点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高森高校より、特別賞として「高森高校賞」を創設。</li> </ul> </li> <li>・各団体の HP 等での情報発信</li> <li>・普及啓発イラストやパンフレットの活用</li> </ul>				
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体と連携し、学習の役割分担の構築を進めているが、職員の変更や体制の見直し等により、情報共有や連携が懸念される。</li> <li>・イラストやぬりえコンテストについて、報道機関へのプレスリリースにより、周知されたためか、応募数が倍増した。</li> <li>・子ども地域学習発表会実行委員会を年度初めに招集し、学校への働きかけを早める。</li> <li>・R6年度は、「草原キッズ・プロジェクトⅣ」の最終年になるため、次年度以降の取り組みをWG等で検討する。</li> </ul>				
ロゴマーク 使用状況	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">1. 使用あり ⇒</td> <td style="width: 70%;">（ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など）</td> </tr> <tr> <td>2. 使用なし</td> <td>草原キッズにゅーす使用</td> </tr> </table>	1. 使用あり ⇒	（ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など）	2. 使用なし	草原キッズにゅーす使用
1. 使用あり ⇒	（ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など）				
2. 使用なし	草原キッズにゅーす使用				

令和5年度活動結果報告 2-8

提出日	令和6年5月27日	活動区分 ※事務局で記入	(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：井上真希 担当者名：		
事業・活動名	草原環境学習「オオルリシジミについて学ぼう！」		
実施場所	南阿蘇村立白水小学校（事前学習）、高森町立東学園義務教育学校（事前学習）、高森町立高森中央小学校（事前学習）、下蹟牧野（南阿蘇村）、前原牧野（高森町）		
実施日・期間	実施日：令和5年5月1日（月）南阿蘇村立白水小学校、5月8日（月）高森町立東学園義務教育学校、5月12日（金）高森町立高森中央小学校		
実施内容	<p>1 校時授業【事前学習】</p> <p>① 挨拶・自己紹介</p> <p>② 「ここがすごいぞ！阿蘇の草原ものしりクイズ」※電子黒板</p> <p>③ 学習終了・トイレを済ませ、マイクロバス乗車・移動</p> <p>牧野到着</p> <p>① 注意事項説明</p> <p>② 虫めがね配布、使い方説明</p> <p>③ 班ごとに移動、観察</p> <p>バスに戻り、ふりかえり・まとめ</p> <p>①感想、気づいたことなど発表</p> <p>②ふりかえり</p> <p>バス乗車・学校到着</p> <p>参加者：南阿蘇村立白水小学校3年23名（うち支援学級4名）、高森町立東学園義務教育学校4年4名、高森町立高森中央小学校4年47名（うち支援学級1名）</p>		
実施体制 (連携・協力)	<p>講師：大西佳代（白水小学校）、花岡玲子（高森中央小学校）、井上真希（東学園義務教育学校）</p> <p>コーディネーター：井上真希</p> <p>その他の協力者：岡俊樹（白水小学校、高森中央小学校）、花岡利和（高森中央小学校）、岡くに子（高森中央小学校）</p>		



草原から校区を見下ろす（白水小学校）



事前学習のようす（高森中央小学校）

実施の様子



クララの蕾に産み付けられた卵の観察  
介  
（東学園義務教育学校）



オオルリシジミの名前の由来紹介



記念撮影（東学園義務教育学校）






観察風景（白水小学校）

活動目標の  
達成具合、  
その他の成  
果と課題

・白水小学校の草原学習では、昨年に引き続き熊本県文化企画・世界遺産推進課の世界文化遺産担当者の視察（現地のみ）もあった。「貴重な動植物をはじめ、牧野の中の生態系を感じることができて大変勉強になりました。ご案内いただきありがとうございました。オオルリシジミの美人さんをこの目で見れて嬉し

	<p>いです。生徒さんたちは、昆虫、草花、骨、糞など普段見れないものを五感で楽しんでいるようでした。大変いい経験になったのではないのでしょうか。」とのご意見をいただいた。今後は事前学習から視察していただき、草原のシンボルであるオオルリシジミを通した草原の価値について共有していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高森町の前原牧野では昨年から急激な個体数の減少がみられる。今年度も通常であれば比較的観察しやすい時期に学習を設定したが成虫の観察ができなかった。南阿蘇村の牧野でも数年前から減少傾向がみられている。この地域ならではの草原環境学習として学校で定着しつつあるだけに、地元牧野組合および研究者、熊本県自然保護課とも情報共有しながら今後の学習継続の在り方についても検討していきたい。</li> <li>東学園義務教育学校より、ハナシノブやツクシマツモト、ヒメユリなど阿蘇固有の植物についての学習にも興味があるとの相談があった。</li> </ul>
<p>実施者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生との事前打ち合わせにおいて「去年は学習館に行き草原について学んだが、あか牛やオオルリシジミ、草原のつながりがぼんやりしていたようだ。草原の恵みやオオルリシジミがなぜ阿蘇にいるのかにも触れてほしい。」とのご意見をいただいた。これを踏まえ新たに作成した事前学習を実施したところ、「話が上手で生徒が飽きることなく 45 分間集中していた」「クイズの流れがよかった」等好評だった。</li> <li>下蹟牧野では当日組合長の意向により、通常のフィールドでの観察ができなかった。あか牛がいない場所だったため、フィールドで話す予定だった繁殖牛の話や舌刈りなどあか牛を観察しながらの話ができなかった。以前はあか牛養いについて現地でお話してもらったこともあるため、時間配分も見ながら可能な範囲で牧野に相談していきたい。</li> </ul>
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p> <p>2. <u>使用なし</u></p>

令和5年度活動結果報告 2-9

提出日	令和 6年 5月24日	活動区分 ※事務局で記入	(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 国立阿蘇青少年交流の家		
	担当者名：後藤 健征		
事業・活動名	阿蘇の草原キッズになろう！ ①秋編 ②野焼き編		
実施場所	①秋 編：阿蘇青少年交流の家・町古閑牧野 ②野焼き編：阿蘇青少年交流の家・町古閑牧野・春牧牧野		
実施日・期間	①秋 編：令和5年10月11日と25日・令和5年12月7日の3回 ②野焼き編：令和6年1月上旬～2月中旬		
実施内容	<p>①秋編 対 象：一の宮小4年生 82名 活動場所：阿蘇青少年交流の家・町古閑牧野・小堀牧野 内 容：講師による講話、草原ビンゴ、中間発表会 実施状況：秋編 「今までは草原の草花を意識して見たことが無かったけれど、これからは、阿蘇特有の草花ということを意識して見ていきたい。」「阿蘇の草原は、水を沢山貯える九州の水がめの役割がある事を初めて知った。」「阿蘇に降った雨水が海に流れ出るころには、栄養豊富な水となり流れ出る事が分かった。」などの感想から、草原保全に関する関心の高さや知識量の増加があることがわかった。</p> <p>②野焼き編 対 象：一の宮小4年生82名、阿蘇小36名、高森中央小47名、高森東学園4名 活動場所：阿蘇青少年交流の家、町古閑牧野、春牧牧野 内 容：火消し棒づくり、野焼き 実施状況：野焼き編 「昔から受け継いできているから、みんなが草原を大切にしていると思う。将来、野焼き支援ボランティアをしてみたい」「野焼きがあるから草原が守られているんだということがわかった」「昔の人たちはもっと苦労して野焼きをしていたと思うので、本当にすごいと思う」などの感想から、学童期から野焼き学習を行うことの有用性がわかった。</p>		
実施体制 (連携・協力)	<p>「阿蘇草原再生協議会草原環境学習小委員会」：草原学習プログラム作成、活動時の指導 「阿蘇グリーンストック」：講師派遣、ボランティアの派遣、連絡調整 「市原啓吉氏(町古閑牧野組合長)」：草原学習プログラムにおける指導助言、児童への指導</p>		
実施の様子	   <p>【草原ビンゴを行う児童】      【火消し棒をつくる児童】      【野焼きをする児童】</p>		

<p>活動目標の達成具合、その他の成果や課題</p>	<p>【成果】 「秋編」では、草原の植物に関する学習を楽しみながら取り組ませることができた。「野焼き編」では、先人の営みによって阿蘇の草原が維持されていることに気付かせることができた。</p> <p>【課題】 野焼きをする時間帯に、雨天後の水滴や霜で萱が乾ききっていなかった。そのため、なかなか萱に火が付かなかった。次回は実施時刻も検討する必要がある。</p>
<p>実施者の感想</p>	<p>秋編については、草原の植物に焦点化したゲームを行ったことで、草原を身近に感じさせることができた。また野焼き編では、実際に草原に火をつけて燃やすことで、毎年繰り返される草原再生の取り組みについても、野焼きが重要な役割を果たしていることを理解させることができた。</p>
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など) 2. <u>使用なし</u></p>

令和5年度活動結果報告 2-10

提出日	令和 6年 5月 日	活動区分 ※事務局で記入	(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：株式会社 地域環境計画 九州支社 提出者名：小山内朝香		
事業・活動名	阿蘇市立波野小学校におけるスズラン自生地を活用した草原学習（スズラン学習）の実施支援		
実施場所	阿蘇市立波野小学校、スズラン自生地		
実施日・期間	令和5年 4月 18日 ~ 令和6年 3月 22日		
実施内容	<p><b>スズラン自生地での草原学習</b>            実施日：令和5年5月25日（春）、9月20日（秋）            参加者：波野小学校全学年（約40名）            実施状況：春は「スズランと」、秋は「草原と植物の移り変わり」をテーマとして学習を行った。スズラン自生地の休憩所での座学の後、1・2年生、3・4年生、5・6年生に分かれて、各季節の草原・植物の観察とマップづくり、植物調べ、お気に入りの花のキーホルダーづくりなどを行った。</p> <p><b>波野小学校での学習の実施支援</b>            実施日：令和5年5月2日、24日、6月19日、8月21日、11月12日            参加者：校長先生、教頭先生、担任の先生ら            実施状況：波野小学校の先生方とスズラン学習についてイメージを共有しながら、草原学習の進め方について実施支援を行った。打合せの内容やスズラン学習の実施状況については、報告書としてとりまとめ、学習のねらい、学習を通して目指す波野の将来像、学習内容のイメージ、今後の展開等について整理した。</p>		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿蘇市（住環境課）の「希少野生植物保護事業（植物調査）業務委託」の一環として実施した。</li> <li>波野小学校の先生方、阿蘇市（住環境課・観光課）、株式会社地域環境計画、スズラン自生地管理組合、野生動植物保護監視員、地域学校協働活動推進員が連携・協力して実施した。</li> <li>また、スズラン自生地や学習の成果を地域の方々に知ってもらうための展示を、道の駅「なみの」神楽苑の協力のもと、同展示スペースにて11月に行った。</li> </ul>		
実施の様子	<p>スズランが思ったより小さかった、シライトソウがいいにおいがした、もっとほかの花も見たいなどの意見があり、楽しみながら学習をすることができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>座学</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>草原散策、植物観察</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地元の方のお話</p> </div> </div>		

<p>活動目標の達成具合、その他の成果や課題</p>	<p>予定していた活動は実施でき、実施期間における活動目標を達成することができた。また、道の駅「なみの」神楽苑やスズラン自生地の休憩所でスズラン学習の成果を展示するなど、地域の方や来訪者に向けた啓発についても行うことができた。</p> <p>本活動は、スズラン自生地の保全のために、地域の皆さんに、地域の草原や生きもの、文化、人などについて知ってもらい、一緒にスズラン自生地の未来を考えていくことを目指しており、今後も継続的に実施していくための体制を構築していくことが今後の課題である。</p>
<p>実施者の感想</p>	<p>初めての取り組みであったが、地域の協力、連携のもとに実施することができた。今後、開催の時期やテーマを少しずつ変えながら、スズラン自生地公園の年間を通した草原の移り変わりを体験できるよう、継続した取り組みとしていきたい。</p>
<p>ロゴマーク使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)  2. 使用なし</p>

令和5年度活動結果報告 3-1

提出日	令和6年5月17日	活動区分 ※事務局で記入	(3)、(1)、(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：阿蘇草原再生シール生産者の会 担当者名：渡邊卓実		
事業・活動名	草原植生調査と野草堆肥利用のための採草活動		
実施場所	阿蘇市 町古閑牧野		
実施日・期間	草原環境調査：令和5年 8 月 21 日 採草活動：令和5年 11 月 15 日、23 日		
実施内容	① 草原環境調査 町古閑牧野内の調査区にて採草地の植物調査を行った。 ② 採草活動 草刈り作業を 1 日、数日後草が乾いた頃に草集め作業を 1 日かけて行った。		
実施体制 (連携・協力)	●生産者会員 1 名 その他 8 名 ●事務局支援 阿蘇くじゅう国立公園管理事務所(連絡調整:情報発信など) ●阿蘇グリーンストック 増井氏、平田氏(調査講師) ●全国草原再生ネットワーク 高橋氏(データ監修)		
実施の様子			
成果と課題	成果： ①採草する草原の植生調査を行い、植生変化データを保管することができた。 ②大型機械の入れない急傾斜地約 2.5ha の面積を採草した。 刈り取った野草は会員が野草堆肥として野菜作りに利用するために持ち帰った。		


	<p>課題：</p> <p>①過去12年間のとりまとめに当たって、その取り扱いや調査方法について検討する必要がある。</p> <p>②高齢化に伴い会員からの参加が減少している。</p>
実施者の感想	<p>会員の高齢化に伴い、参加者が年々減少している。継続的に実施していくためには、ボランティアなどの協力者を増やしていく必要がある。</p>
ロゴマーク 使用状況	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p> <p>2. <u>使用なし</u></p>

令和5年度活動結果報告 3-2

提出日	2024年7月31日	活動区分 ※事務局で記入	(3)、(1)																																												
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名 : 草原再生オペレーター組合 担当者名 : 中坊 真																																														
事業・活動名	採草による未利用草地の再生																																														
実施場所	阿蘇市内																																														
実施日・期間	2023年4月1日 ~ 2024年3月31日																																														
実施内容	8月~10月に飼料用、11月~3月に堆肥・マルチ用野草の採草を行い、主に熊本県内の農家に対して販売を行いました。11月~2月に『お友達紹介キャンペーン』を実施し、新規顧客の開拓を行いました。																																														
実施体制 (連携・協力)	草原再生オペレーター組合が主体となり事業を推進し、事業に係る牧野組合との協議や野草販売等については、NPO法人九州バイオマスフォーラム、阿蘇市、阿蘇地域振興局、阿蘇地域世界農業遺産推進協会等と連携しながら事業を実施しました。																																														
活動の状況	<p>採草面積と新規利用者数の推移を以下のグラフに示します。2023年度は天候不良のため1~3月の採草日数が12日減少したため、採草面積も減少しています。新規利用者数は24件となり、前年比7件増加しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>採草面積の推移</p> <table border="1"> <caption>採草面積の推移 (ha)</caption> <thead> <tr><th>年</th><th>面積 (ha)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>2014</td><td>35</td></tr> <tr><td>2015</td><td>95</td></tr> <tr><td>2016</td><td>100</td></tr> <tr><td>2017</td><td>130</td></tr> <tr><td>2018</td><td>150</td></tr> <tr><td>2019</td><td>145</td></tr> <tr><td>2020</td><td>155</td></tr> <tr><td>2021</td><td>145</td></tr> <tr><td>2022</td><td>135</td></tr> <tr><td>2023</td><td>127</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>新規利用者数の推移</p> <table border="1"> <caption>新規利用者数の推移 (件)</caption> <thead> <tr><th>年</th><th>件数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>2014</td><td>20</td></tr> <tr><td>2015</td><td>28</td></tr> <tr><td>2016</td><td>30</td></tr> <tr><td>2017</td><td>35</td></tr> <tr><td>2018</td><td>30</td></tr> <tr><td>2019</td><td>25</td></tr> <tr><td>2020</td><td>35</td></tr> <tr><td>2021</td><td>42</td></tr> <tr><td>2022</td><td>18</td></tr> <tr><td>2023</td><td>24</td></tr> </tbody> </table> </div> </div>			年	面積 (ha)	2014	35	2015	95	2016	100	2017	130	2018	150	2019	145	2020	155	2021	145	2022	135	2023	127	年	件数	2014	20	2015	28	2016	30	2017	35	2018	30	2019	25	2020	35	2021	42	2022	18	2023	24
年	面積 (ha)																																														
2014	35																																														
2015	95																																														
2016	100																																														
2017	130																																														
2018	150																																														
2019	145																																														
2020	155																																														
2021	145																																														
2022	135																																														
2023	127																																														
年	件数																																														
2014	20																																														
2015	28																																														
2016	30																																														
2017	35																																														
2018	30																																														
2019	25																																														
2020	35																																														
2021	42																																														
2022	18																																														
2023	24																																														
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<p>① 活動目標の達成状況 2023年度の採草面積目標を145haとしていましたが、実績は126.8ha（前年比-11.4ha）となりました。採草面積が減少した理由は、天候不順のほかに、地元牧野が採草利用を再開したために、未利用草地が減少したことが挙げられます。地元牧野が採草を再開した理由は、円安や物価高騰より、国内粗飼料の需要が高まったことにあります。</p> <p>② 成果と課題 2024年2月26日に阿蘇草原再生協議会の特別賞「伊藤園賞」を受賞しました。昨年度は、熊本県農業コンクールからも賞をいただいております。こうした外部評価を生かして、採草地の確保や販路拡大を開拓していきたいと考えています。また、組合員のネットワーク等を活かして未利用草原の情報を収集し、継続利用が可能な採草地の確保を進めていきます。</p>																																														

実施者の感想	2024年度は、未利用草原を新規確保し、野草の安定確保を目指します。さらに、これまでの受賞歴やホームページを活用して広報活動を行い、野草販売の拡大・向上に繋げていきたいと思えます。				
ロゴマーク 使用状況	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="360 340 606 376">①. 使用あり ⇒</td> <td data-bbox="667 340 1426 376">(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="360 385 606 421">②. 使用なし</td> <td data-bbox="667 385 1426 421">堆肥・マルチ用野草ロールのチラシに記載</td> </tr> </table>	①. 使用あり ⇒	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	②. 使用なし	堆肥・マルチ用野草ロールのチラシに記載
①. 使用あり ⇒	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)				
②. 使用なし	堆肥・マルチ用野草ロールのチラシに記載				

令和5年度活動結果報告 3-3

提出日	令和 6年 6月 12日	活動区分 ※事務局で記入	(3)、(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 熊本県農業研究センター草地畜産研究所		
	担当者名： 小柳 藍夏		
事業・活動名	阿蘇産牧草を利用した高自給率発酵 TMR によるあか牛肥育試験		
実施場所	熊本県農業研究センター草地畜産研究所		
実施日・期間	令和 5年 4月 1日～ 令和 6年 3月 31日		
実施内容	<p>高自給率発酵 TMR を給与することによる、褐毛和種去勢牛の発育・肉質への影響を調査する。TMR の原料として、阿蘇産牧草に加え、国産トウモロコシである子実トウモロコシ (…試験区①) 又は、イアコーンサイレージ (ECS) (…試験区②) を使用し、それぞれ給与試験を実施中。</p> <p>試験区①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験期間：令和5年3月～令和6年6月</li> <li>・供試牛：褐毛和種去勢牛3頭</li> <li>・飼料概要：発酵 TMR のうち、子実トウモロコシ割合は約3割 自給率100%</li> </ul> <p>試験区②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験期間：令和5年4月～令和6年7月</li> <li>・供試牛：褐毛和種去勢牛3頭</li> <li>・飼料概要：発酵 TMR のうち、ECS 割合は約1～2割 自給率約70%</li> </ul>		
実施体制 (連携・協力)	協力機関：熊本県農業研究センター畜産研究所 (試験設計、飼料設計等) 株式会社ネットワーク大津 (発酵 TMR 製造) 熊本県酪農業協同組合連合会 (トウモロコシ生産)		
実施の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">子実 TMR                      ECS TMR                      給与の様子</p>		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発酵 TMR の自給率は目標の70%以上を達成</li> <li>・令和6年3月時点で①…21か月齢、634kg、②…20か月齢、655kg</li> <li>・令和6年度は出荷後の牛肉の肉質分析を実施予定</li> <li>・試験頭数が少ないため令和7年度に再度同様の試験を実施予定</li> </ul>		
実施者の感想	子実トウモロコシ、イアコーンサイレージともに、TMR に利用した際の嗜好性は良好。(子実トウモロコシは汎用コンバインで収穫できるが、イア		

	コーンは収穫機に専用の収穫用アタッチメントが必要。)	
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)
	2. 使用なし	

令和5年度活動結果報告 3-4

提出日	令和 6 年 6 月 10 日	活動区分 ※事務局で記入	(3)、(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 中村華子/日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会 担当者名：中村華子		
事業・活動名	野草資源化にむけて・緑化事業に植物種子を活用するための取り組み		
実施場所	烏帽子岳登山道、荻岳牧野、町古閑牧野、下の道採草組合（など）		
実施日・期間	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年に実施した烏帽子岳登山道のモニタリングおよび周辺登山道の整備を管理事務所、パークボランティアの参加を得て実施。継続的にメンテナンスをした方がよいと考えられるため、継続的に実施していく。</li> <li>・阿蘇振興局が実施した緑化工事の対象地周辺の初期土壌調査を行った。植生の回復による変化を継続的に調査する予定。</li> <li>・緑化種子の供給を希望する企業に対して、採取方法などを共有するワークショップを開催した。活用・流通の活性化に向けた取り組み。</li> <li>・牧野の活用について大学生等に意見を聞くワークショップを開催。地域外からの訪問者としてどのようなことが考えられるか意見交換を行った。</li> </ul>		
実施体制 (連携・協力)	日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会阿蘇ワーキングチーム（主体） 烏帽子岳のモニタリングは国立公園管理事務所とパークボランティアのみなさんと実施 牧野での活動は各牧野組合等の協力により実施		
実施の様子	(写真を添付します)		
活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題	阿蘇振興局では国立公園内の工事には地域の植物を使用する方向性を打ち出しています。担当者、事業者のみなさんが阿蘇の草原から活用する植物を選び、採取や調達が順調にできるように、しっかり手助けしていきたいと考えています。種子採取のくめやすくなるような資料を作成しているところで、普及、広報につとめていきたいと考えています。		
実施者の感想	外部からの来訪者からみた草原の魅力について、ワークショップに参加した学生からの感想は「草原にいること」が気持ちよく、「そのまま」を楽しめる、という感想が得られた。当地で生まれ育った方には当たり前の景色や自然が来訪者にとっては特別な体験となり得ることを共有する機会となった。		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ ○2. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	



阿蘇中央火口丘烏帽子岳の実播工（2022年4月実施）場所の  
植生モニタリングおよびメンテナンス作業（2023年8月）



日本緑化工学会生態・環境緑化研究部会 阿蘇プロジェクト  
南小国ワークショップレポート  
2023年8月26日

活動場所（対象牧野）：南小国町の3牧野  
・NPO法人 神戸石の丘（南小国町中原 上中原地区）  
・下の道採草組合（南小国町中原 間瀬野地区）  
・間瀬野牧野組合（南小国町中原 間瀬野地区）

参加大学・研究室：  
和歌山大学システム工学部 みどり研究室  
東京農業大学地域環境科学部 治山緑化工学研究室

概要と目的：  
牧野の新しい活用を検討するため、見どころを表現する試み。踏査を行って特徴を記録するとともに立体的に全体を俯瞰して地形や特徴をわかりやすく表現する。立体的に牧野を見直すことで新しい発見があるかもしれない。

参加者レポート・感想（以下 参加者ごとに提出されたレポートを添付します）

和歌山大学 M2 眞野文暲

<神戸石>  
阿蘇全体の地形的特徴をはじめ、阿蘇山から流れる川や標高上での特徴的な気候を集中豪雨での影響などご説明をいただき、阿蘇での地理的な見方が深まりました。  
はさみ石は以前に目撃計として使われていたことや、雫つきは間を通ると陸まってしまうという伝説もパズルでのお決まりで使われたという話もあり、ユーモアを交えて分かりやすく説明していただき印象に残りました。

<マゼノ>  
今回は夏の渓流をみるができ、苔が生い茂っていることから涼みを感じることができた。また他の季節になると涼しい景色が楽しめると思うのでそれぞれの季節に適した観光の手法があれればよいのではないかと思いました。夏においてはキャンプに加えて川魚やそのほか涼しさを夏を感じられるものを組み合わせて十分に観光できると感じました。

<下の道>  
巨大な取り回りの機械も拝見することができ、その便利さと規模の大きさに驚きました。活用法においては、近年、グランピングでの宿泊が流行しており阿蘇においても同様に施設数は増加していますが、宿泊施設を加えた複合型のアドベンチャー施設を行っているところは他にありません。周囲を一周できる高谷に架かると降りればすぐに川も流れていることから、初費用がかかってはいますが、宿泊しながら複数のアドベンチャー施設で体験できる阿蘇で唯一の施設を作ることができると感じました。

南小国で実施した草原の活用方法を検討するワークショップの様子と学生が作成したレポート（部分）。2023年8月に実施。

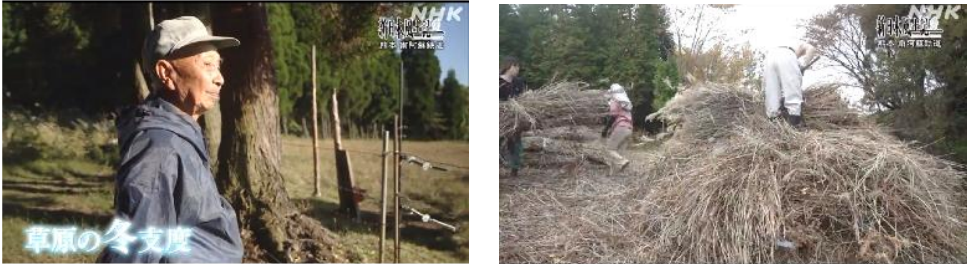



2023 年阿蘇市波野スズラン自生地で開催した写真展のポスターと現地の様子

草原や植物を活かした地域活性化に向けた取り組みの一貫として、2022 年より地域の方と協働で写真展を開催しています。


2023 年度は 4 月末～5 月末の約 1 ヶ月間、阿蘇市波野地区のスズラン自生地管理組合と共催で開催。主に地域の方が撮影した植物や阿蘇の風景の写真を約 50 点展示し、期間中は地域内外の多くの来場者が訪れ手下さいました（写真）。

令和5年度活動結果報告 3-5

提出日	令和 6年 7月 29日	活動区分 ※事務局で記入	(3)、(1)																								
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：公益財団法人阿蘇グリーンストック 担当者名：木部 直美(委託)																										
事業・活動名	令和5年度 草小積み再生プロジェクト																										
実施場所	阿蘇の草原や観光施設の周辺																										
実施日・期間	令和5年8月～令和6年3月																										
実施内容	<p>○草小積み製作と展示</p> <p>以下の牧野組合等にご協力いただき、阿蘇郡市内の計 20 基の草小積みを設置。製作の際は、各地域での技術の継承も進めた。</p> <p>&lt;製作場所(協力牧野組合等)と設置数&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>大観峰付近(小倉・西小倉両区)</td> <td>1基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>城山展望所付近(三閑牧野組合)</td> <td>3基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>箱石峠付近(町古閑牧野組合)</td> <td>3基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>らくだ山麓付近(村山牧野組合)</td> <td>3基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>萌の里(小森原野組合)</td> <td>2基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>265号線沿いの草原(高森と波野の農家)</td> <td>3基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>南阿蘇桜公園(南阿蘇桜公園管理組合)</td> <td>2基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高森町尾下の草原(高森の農家)</td> <td>3基</td> <td>計20基</td> </tr> </table> <p>○普及・啓発活動</p> <p>地域内外の方に草小積みや阿蘇の草原について知っていただくため、草小積み展示場所への解説板の設置や広報資料の配布、マスコミへのニュース・リリース、農業遺産HPやSNSでの情報発信を行った。また、NHK BS「新日本風土記」の番組『熊本 南阿蘇鉄道』において「草原の冬支度」として高森町の農家の草小積み製作が紹介された。</p>			大観峰付近(小倉・西小倉両区)	1基		城山展望所付近(三閑牧野組合)	3基		箱石峠付近(町古閑牧野組合)	3基		らくだ山麓付近(村山牧野組合)	3基		萌の里(小森原野組合)	2基		265号線沿いの草原(高森と波野の農家)	3基		南阿蘇桜公園(南阿蘇桜公園管理組合)	2基		高森町尾下の草原(高森の農家)	3基	計20基
大観峰付近(小倉・西小倉両区)	1基																										
城山展望所付近(三閑牧野組合)	3基																										
箱石峠付近(町古閑牧野組合)	3基																										
らくだ山麓付近(村山牧野組合)	3基																										
萌の里(小森原野組合)	2基																										
265号線沿いの草原(高森と波野の農家)	3基																										
南阿蘇桜公園(南阿蘇桜公園管理組合)	2基																										
高森町尾下の草原(高森の農家)	3基	計20基																									
実施体制 (連携・協力)	<p>実施主体：阿蘇地域世界農業遺産推進協会 委託先：公益財団法人阿蘇グリーンストック 協力：阿蘇地域の牧野組合や畜産農家、地域内外の協力者 連携：阿蘇草原再生協議会、郡市内の行政や観光協会等(普及・啓発活動への協力)</p>																										
実施の様子	 <p>NHK BS「新日本風土記」での紹介</p>																										

	 <p style="text-align: center;">各地の草小積み製作のようす</p>	
<p>活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題</p>	<p>草小積みプロジェクトは、阿蘇地域世界農業遺産推進協会の事業として2016年にスタートして以来8年目となった。令和5年度の設置基数は、前年度より3基減少して計20基で、近年予算確保が難しくなっていることに加えて、長年ご夫妻で草小積みを製作しておられた方が健康上の理由より製作を断念されたことも影響した。</p> <p>草原を活かす知恵と工夫を後世に伝えていくためには、各地で草小積みを作り風景の中で残すことに加えて、効果的な継承のあり方について多方面からの意見をいただき、更に工夫することが求められていると感じている。</p>	
<p>実施者の感想</p>	<p>同上</p>	
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>①. 使用あり ⇒ ②. 使用なし</p>	<p>草小積み案内チラシに使用。阿蘇郡市の主要な観光案内施設に配布。</p>

令和5年度活動結果報告 4-2

提出日	令和 6年 5月 28日	活動区分 ※事務局で記入	(4)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 公益財団法人阿蘇グリーンストック 担当者名：平田 靖明		
事業・活動名	阿蘇地域における希少野生動植物の生育生息調査と分布状況のデータベース化		
実施場所	1章 阿蘇郡市内		
実施日・期間	令和 5年 4月 1日～ 令和 5年 10月 23日		
実施内容	<p>植物調査や観察を行っている有志の方々にレッドリスト等記載の植物種についてヒアリングを実施し、その結果を基に実際に現地調査を行い植物の生育状況を確認する。※1</p> <p>現地調査に牧野内の入牧が必要な際は、牧野代表者に連絡を取り、入牧許可を得てから牧野内の調査を実施した。入牧の際には、家畜伝染病予防のため、100倍希釈した消毒液を長靴に散布し入牧した。</p> <p>現地調査では、ヒアリングを基に生育が予想される植物、および生育環境から予想される植物の生息がないか確認を行った。確認した植物については、種名・確認牧野・群落の有無・写真撮影等を記録し、種不明種については細部の写真撮影し、後日同定を行いレッドリスト等のカテゴリーを評価した。同定のための植物個体の採取については実施していない。</p> <p>※1 キスミレおよびヒロハヤマヨモギは阿蘇地域の牧野に広く分布するため調査対象からは除外した。</p>		
実施体制 (連携・協力)	<p>ヒアリング協力者 八山会(登山グループ)、阿蘇花野協会瀬井氏、野鳥の会小池氏、森林インストラクター西氏</p> <p>現地調査協力者 阿蘇花野協会瀬井純雄氏、熊本県森林インストラクター西一郎氏</p>		
実施の様子	 <p>高森町上在牧野のオキナグサ、牧野内に多く生育している。野焼きの中止によりススキが覆いかぶさっており、今後の生育が危ぶまれる。</p>		

<p>活動目標の達成具合、その他の成果や課題</p>	<p>阿蘇地域の7市町村でヒアリングおよび現地調査を実施した結果、多くの絶滅危惧種の生育情報または生育を確認することが出来た。絶滅危惧種のカテゴリー別の内訳は環境省（国）レッドリストカテゴリーでは絶滅危惧 IA 類（CR）1 種、絶滅危惧 IB 類（EN）8 種、絶滅危惧 II 類（VU）18 種、準絶滅危惧種（NT）8 種の計 35 種、熊本県レッドデータブックカテゴリーでは絶滅危惧 IA 類（CR）14 種、絶滅危惧 IB 類（EN）6 種、絶滅危惧 II 類（VU）23 種、準絶滅危惧種（NT）16 種に要注目種（AN）1 種、情報不足（DD）1 種を含めて計 61 種であった。</p> <p>データベース化のためには情報が不足していると感じたため、次年度からは調査回数を多くしデータの収集に注力したい。</p>
<p>実施者の感想</p>	<p>各牧野に生育する植物種とその生育環境の評価から短草型野草地およびヨシ等が優勢しない湿地環境には多様な植物種が生育している傾向にあると考えられる。とくに外輪山斜面の草地は、畜産等の経済活動としては利用の難しい地形であり、草地を維持する優先度が低い反面、風雪や岩盤の土壌による影響が短草型の野草地が放牧や採草を行わずとも保たれており、多様な植物種の生育環境として重要な役割を果たしている。湿地環境においては、野焼きをしないことで枯草堆積による陸地化や土壌の富栄養化によるヨシの繁茂等の問題により湿地環境の悪化が懸念される。草地生態系の生物多様性を保全していく上では、これらのような利用困難条件の草原環境も保全していくことが重要であり、畜産利用や採草利用などの二次的な利用による経済性とは異なる草原を維持する活動という行為そのものに対して経済的なインセンティブが必要ではないかと考える。</p>
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など) 2. 使用なし</p>

令和5年度活動結果報告 4-3

提出日	令和6年 7月 28日	活動区分 ※事務局で記入	(4)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 東京農業大学		
	担当者名： 町田怜子		
事業・活動名	半自然草地の保全にむけた炭素主流化によるカーボンオフセット創出		
実施場所	町古閑牧野の一部		
実施日・期間	令和5年4月1日～令和6年3月30日		
実施内容	<p>本研究プロジェクトでは、熊本県阿蘇地域の半自然草地（約22,000ha）を対象に阿蘇の草地の炭素貯留量を評価し、草原カーボンオフセット・メカニズムの構築を目指している。現時点までに実施した内容は、火入れ草地のバイオマス量調査と途上断面調査と植生調査、細根のバイオマスを調査し、阿蘇の草原の炭素貯留量の調査研究を行った。また、草原クレジットを草原管理の担い手である地域住民やボランティアに還元するための社会調査を実施した。各調査の概要は下記に示す。</p> <p><b>A.火入れ草地のバイオマス量調査と土壌断面調査</b></p> <p>土地管理方法の違いが土壌炭素蓄積量に与える影響を明らかにするために、町古閑牧野のススキ野焼き草地3地点と、ススキ野焼き放牧地1地点、牧草放牧地1地点の計5地点で土壌断面調査を行った。今後は採取した土壌試料の一般理化学性分析を進め、各地点の土壌炭素蓄積量を算出する。また、土壌調査の際に採取した地下部バイオマス量の測定も行い、地下部バイオマス量を加味した土壌炭素蓄積量を算出する。</p> <p><b>B.植生調査</b></p> <p>管理の違い（野焼き、採草）と微地形の違い（頂部平坦面、斜面、凹地）を加味して、町古閑牧野内に設定した22調査区において植生調査を実施した。多変量解析の結果、採草地点では微地形ごとに種組成に明瞭な差異が認められた一方、野焼き地点では微地形による種組成の差異は不明瞭だった（図表省略）。野焼き地点と比べて採草地点における種多様性（種数）は有意に高かった。両管理ともに、微地形の差異に伴う種数の違いは不明瞭だった。</p> <p><b>C.地上部と地下部のバイオマスと純一次生産の調査</b></p> <p>阿蘇外輪山の東部3地域（町古閑、尾下、高森）に見られる3つの草地管理タイプ（採草、野焼き、採草+野焼き）において、それぞれ4-8個の調査区を設置した。地上部と地下部40cm深までのバイオマスと純一次生産（net primary production：NPP）を調べた。ただし、地下部NPPは、春-秋までのデータのみを利用した。地上部と地下部のバイオマスは概ね8-10および10-12Mg/haで、3タイプ間に大きな差はなかった。地上部と地下部のNPPは概ね7-11および1-5Mg/ha/yrで、採草+野焼きが最低、採草が最大、野焼きが中庸であった。これはおそらく攪乱強度を反映しており、攪乱強度が採</p>		

	<p>草+野焼きでは最大、採草では最小なためであると考えられる。今後、地下部NPPについてサンプル処理を進める。</p> <p><b>D.草原クレジット創出のための社会調査</b></p> <p>カーボンオフセット創出を検討する上で、野焼き継続に関する主体について、関係者による聞き取り調査を行った。また、阿蘇地域における野焼きの継続については、牧野組合と野焼き支援ボランティアが重要な役割を果たしていることから、牧野組合の野焼き支援ボランティアの導入とその要因を明らかにすることを目的として、アンケート調査を行った。方法については、対面と郵送の2つの方法で実施し、対面では、2023年8月31日に行われた国立阿蘇青少年交流の家での阿蘇草原再生協議会(以下：協議会)に参加し、協議会に来られた牧野組合長を対象に実施した。また、2023年12月6日に行われた南阿蘇村役場での区長会に参加し、協議会構成員以外の牧野組合を対象にアンケート調査を実施した。郵送は、阿蘇草原再生協議会の構成員となっている牧野組合を対象に2023年9月13日から約1ヶ月間実施した。2024年1月26日現在で54通の回答が得られた(回収率34%)。ステップワイズ法による判別分析により、ボランティアを導入している牧野組合は、作業人数は足りておらず、外部者の参加に抵抗感がないことが分かった。また、野焼きボランティアについては、安全管理、道具の所持が牧野組合に評価されていることが明らかになった。今後は、この様な点へのカーボンオフセットによる支援が重要になると考える。</p>
<p>実施体制 (連携・協力)</p>	<p>実施体制 町田怜子(研究代表者 東京農業大学地域創成科学科教授)、今井伸夫(植物生態学からの炭素貯留量評価、森林総合科学科准教授)、加藤拓(土壌からの炭素貯留量評価、応用科学科教授)、山田晋(植生回復からの炭素貯留量評価、農学部生物資源科学科教授)、茂木もも子(草原カーボンオフセット排出削減・吸収の算定方法 地域創成科学科准教授) *すべて東京農業大学教員。</p> <p>協力：町古閑牧野、阿蘇草原再生協議会、阿蘇グリーンストック</p> <p>なお本研究は、トヨタ財団研究助成により実施しました。</p>
<p>実施の様子</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center;">植生調査(左)      地上部バイオマスの刈取り      細根の仕分け</p>
<p>活動目標の達成具合、その他の成果や課題</p>	<p>本プロジェクトは、火入れ草地において微粒炭として貯留されている莫大な土壌炭素に着目し、草地管理の維持を通じた炭素排出抑制による草原カーボンオフセット・メカニズムの構築を検討していく。企業、都市住民と草原管理を協働で行う草原カーボンオフセットの枠組みを提案を考案する。その際、草原の炭素吸排出量を、BAU シナリオと各シナリオとの炭素量の差分により求める。BAU と各シナリオとの炭素量の差分に、炭素価格を時間割引率を考慮しつ</p>

	<p>つ積算することで、各管理シナリオを選択した際の経済価値を評価する。</p> <p>現在、炭素貯留量の分析を継続しており、本プロジェクト期間中は阿蘇地域における対象牧野の草原カーボンオフセットの枠組みの提案とする。</p>
実施者の感想	<p>本調査の実施にあたり、牧野組合、阿蘇グリーンストック、阿蘇草原再生協議をはじめ多くの方からご協力を賜り実施できました。阿蘇の牧野組合、ボランティア団体の草原保全管理活動支援に寄与できるカーボンオフセットの仕組みを構築できるよう引き続き、研究チームと研究を進めていきたい。</p>
ロゴマーク 使用状況	<p>2. 使用なし</p> <p>(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p>

令和5年度活動結果報告 4-4

提出日	令和6年5月27日	活動区分 ※事務局で記入	(4)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名: NPO 法人 ASO 田園空間博物館		
	担当者名: 東谷和郎		
事業・活動名	牧野ガイド事業		
実施場所	町古閑牧野、西小園牧野、狩尾南山原野牧野、下荻の草牧野、本塚		
実施日・期間	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日		
実施内容	<p>牧野ガイド事業は、草原（牧野）の利用者であり管理者である牧野組合、インバウンドを取り込む役割の観光事業者やガイド、草原の保全活動を行っている各団体を結びつけ、持続的に維持しながら観光に活用する取り組みです。</p> <p>この事業を核として地域の観光業者（飲食店、土産物店、ツアー事業者、宿泊業者等）、旅行会社、DMC、MTBメーカー、アウトドアショップ、トレイルラン大会運営者等と連携し、牧野を活用したアクティビティや趣味を楽しみたい人々をターゲットとした少人数グループでの滞在型ツアーを実施します。また、阿蘇地域では、教育旅行の受入れも活発に行われています。そこで阿蘇の牧野と E-bike を組み合わせたアドベンチャーツーリズムと阿蘇の牧野や阿蘇の文化や歴史の重要性を学ぶ教育を組み合わせたプログラムも実施し、新たな顧客を生み出しています。</p>		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、83名の牧野ガイドと連携し、牧野ライド、牧野トレッキング、牧野トレイルランを実施しています。</li> <li>・参加者1人当たり1,000円の牧野保全料としていただき、その牧野保全料を牧野の維持管理等に利用している。</li> <li>・牧野ガイドは牧野の輪地切り、野焼き等へボランティアとして参加し、牧野の維持活動に取り組んでいる。</li> <li>・牧野に入る際は、必ず認定された牧野ガイドの同行が必須となる。</li> </ul>		
実施の様子	<p>今年度は、牧野ライド、牧野トレッキング全体で440名にアクティビティ体験を実施しました。その中には、マウンテンバイクを趣味として楽しむ方やファミリーやカップルを中心に参加されました。また、教育旅行の一環で全国から3校196名の参加もありました。教育旅行で参加した学生には、阿蘇くじゅう国立公園や阿蘇の牧野について学んでもらい、その後、牧野の中をトレッキングやライドを行いながら五感で楽しんでもらいました。</p> <p>その他、牧野ガイドスキルアップを実施し、町古閑牧野組合長の指導のもと野焼き体験やガイディング講座を行い、ガイドのスキルアップに努めました。</p>		
活動目標の達成具合、その他の成果	<p>毎年度、ガイドのスキルアップ講座を実施している為、ガイドのガイディングスキルも上がり、お客様満足度も向上し、リピーターとなるお客様も多くなったと思います。また、教育旅行の案内やプランの開発も行ったことにより、教</p>		

<p>や課題</p>	<p>育旅行で訪れた学生に阿蘇のことを学び、体験してもらうことで阿蘇の魅力を伝えることができ、阿蘇ファンになるきっかけができたと思います。しかし、まだまだ牧野ライド、牧野トレッキングの認知度も低いため、認知度を上げる取り組みが必要だと感じています。また、ガイドのレベルの差もある為、阿蘇のガイドとして全体的なレベル上げを目指す必要があると考えています。</p>
<p>実施者の感想</p>	<p>牧野ガイド事業の参加者は、新型コロナウイルス前に比べ増加しています。これからもたくさんのお客様に熊本・阿蘇の魅力を学び体感していただき、お客様の満足度を向上できる取り組みを実施していきたいと考えています。そのためにもガイド一人一人がガイドとしての責任を持ち、ガイドのスキルを向上していけるような取り組みを実施していきたいと思います。</p>
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など) 2. 使用なし</p>